

令和5年9月議会報告 不登校支援の新しい形を求めて

【現状】日田市では、不登校児童生徒が年々増加しています。教育支援センター「やまびこ学級」で支援は行われているものの、通所できる児童は限られ、家庭では「どう支えてよいかわからない」という声が多く聞かれます。不登校は怠けや反抗ではなく、環境が合わずに発せられるSOSです。安心して立ち止まり、自分のペースで再び歩き出せる環境を社会がどう整えるかが問われています。

【崎尾の問題提起】議会で崎尾は、不登校を「個人の問題」ではなく社会全体の課題として取り上げました。「市の支援は教育センターの1か所のみ。選択肢が少ない現状が、家庭の孤立と転出の要因になっている」と指摘。教育環境の大切さを説く故事「孟母三遷」を引用し、「環境を変えながら子どもを育てた孟子の母のように、子どもがのびのびと学べる環境を市が整えるべきだ」と訴えました。教育を行政の基盤政策として捉え、支援の多様化を求めました。

【提案】崎尾は、不登校の本質は「学習の遅れ」ではなく「つながりの断絶」にあるとし、子どもが興味を持てる学びから社会と再びつながる仕組みを提案しました。その一例として、世界中で2億本以上販売され、スウェーデンでは必修科目にもなっている「マイクラフト教育版」を紹介。タブレット1台で街づくりや協働学習ができる教材として、自由な発想力を伸ばし、チームで協力しながら社会性を育み、家にいても他者とつながれる可能性を示しました。「子どもたちの好奇心を起点に学びを再構築すべき」との提言は、教育現場に新しい視点をもたらしました。

【成果】議論を経て、令和6年度より「フリースクール利用料補助制度」が新設されました。家庭の経済的負担を軽減し、民間フリースクールの利用料を5割（上限1万円）補助、生活保護世帯には全額補助を実施。不登校の子どもと家庭を社会が支える仕組みが、日田市で制度化されました。

【展望】今後は対象施設の拡大や制度周知を進め、「学校に行けない」ではなく「別の場所で学ぶ」ことを自然に選べる社会へ。教育は、子どもの努力だけでなく、環境をどう整えるにかかっています。

> 子どもが自分のペースで学び、自分の場所で成長できるまちへ。 >
環境を変える勇気が、未来を変える。